



基本検査とその時期について

検査内容

- [1] 低温期採血
- [2] 子宮卵管検査(子宮卵管造影検査または超音波子宮卵管検査)
- [3] 子宮鏡検査(内視鏡)
- [4] 卵胞モニター
- [5] 頸管粘液検査／性交後試験(ヒューナーテスト)
- [6] 排卵確認
- [7] 高温期採血
- [8] クラミジア検査
- [9] 男性不妊検査(精液検査など)
- [10] 抗ミューラー管ホルモン(AMH)
- [11] 甲状腺ホルモン／甲状腺抗体検査*
- [12] 風疹抗体検査*／ビタミンD*／HIV感染症検査*など
- [13] 子宮癌検査(子宮頸癌、子宮体癌検査)
- [14] 75gOGTT(経口ブドウ糖負荷試験)
- [15] ホルモン負荷検査

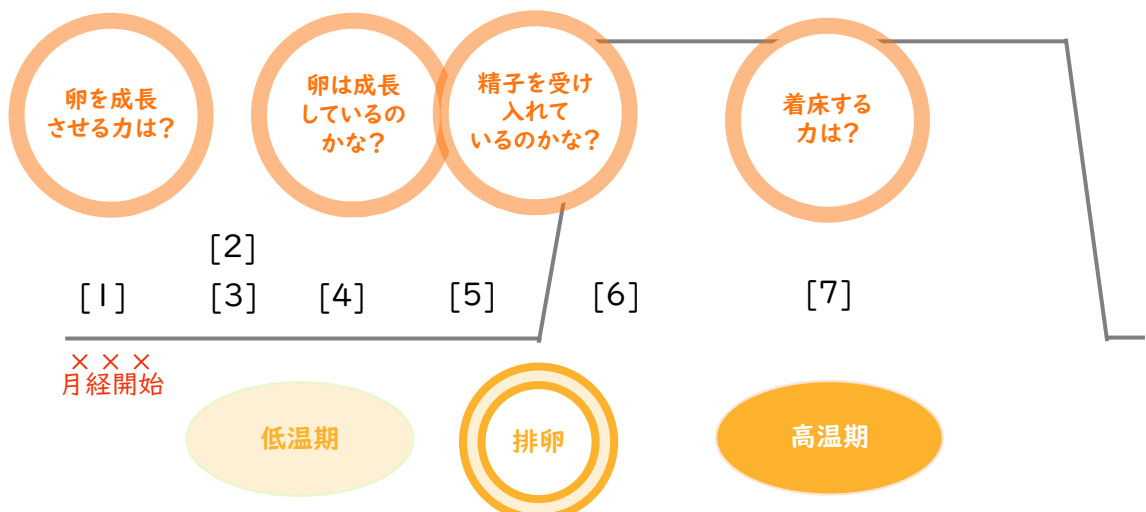
月経周期内で検査時期が
決まっている項目もあります。
(下記参照)

「*」の検査は自費の検査となり、
保険診療では行えません。

その他の検査(基本検査ではありません)：抗精子抗体、染色体検査、着床不全検査、不育症検査など

検査時期が決まっている検査

この時期を逃すと次周期の検査となります。





[1] 低温期採血 月経2～5日目（月経が始まった日を1日目とします）の時期に採血を行い、ホルモンの基礎値を調べる検査です。脳から産生されるホルモンを測定し、間接的に卵巣機能を確認します。 検査項目：LH（黄体化ホルモン）、FSH（卵巣刺激ホルモン）、PRL（プロラクチン） E₂（エストラジオール）、テストステロン（男性ホルモン）	2,500円 前後
[2] 子宮卵管検査（子宮卵管造影検査または超音波子宮卵管検査） 受精の場である卵管の通過性や卵管が腫れているかどうか、子宮の形態を調べる検査です。検査の結果により治療方針が大きく変わることもあります。 月経終了直後～月経10日目以内かつ出血がない時期に行います。 子宮の中に風船がついた管を入れます。その風船を栓にして子宮の出口を塞ぎ、検査液を子宮の中に流します。 ① 子宮卵管造影検査 レントゲンを用いて造影剤が卵管から流れてくることを確認します。 当院から徒歩5分程の距離にあります矢内原医院で行います。 排卵前は放射線被爆の影響は殆どありませんので、検査をした周期でも妊娠が可能です。 ② 超音波子宮卵管検査 生理食塩水と空気の混合液を用いて子宮と卵管を検査します。造影剤のアレルギーがある方でも検査ができます。当院で行います。	① 15,000円～24,000円 前後 ＊使用する造影剤の量で 変わります。 ＊保険適応ではありますが、 カテーテル等の一部保 険適応外も含まれます。 ＊土曜日午後は時間外加 算がかかります。 ② 26,000円 前後
[3] 子宮鏡検査 子宮の中に細いカメラ（内視鏡）を挿入し、子宮内にポリープや子宮筋腫、子宮内膜炎の兆候等がないかを調べます。月経終了直後～月経10日目以内かつ出血がない時期に行います。	2,600円～28,000円 前後
[4] 卵胞モニター（超音波検査／エコー） 卵子が入っている袋を卵胞と呼びます。超音波検査で卵胞の発育状態を確認していきます。卵胞は平均18～21mmで排卵します（自然周期）。小さめ、大きめで排卵したり、その月経周期によって排卵までの卵胞サイズが異なります。排卵時期を把握するために必要な検査です。	1,600円～3,600円/1回 前後 ＊この検査は月により行う 回数が変わってきます。
[5] 頸管粘液検査 排卵前にはE₂（エストラジオール）というホルモンが分泌されます。そのホルモンに頸管という子宮の出口が反応して粘液を作り出し、精子を受け入れやすくします。その粘液の性状や量を検査します。 性交後試験（ヒューナーテスト） 排卵時期の性交後、頸管粘液の中に精子がどのくらい動いているか顕微鏡で確認します。性交をとった夜の翌朝または当日に検査をします（24時間以内）。この検査は、排卵や性交の時期などにより偽陰性が出やすい検査です。そのため2回以上検査をします。繰り返し結果が陰性だった場合、タイミング指導を受けるよりも早めに人工授精（AIH）や体外受精（IVF）へのステップアップをお勧めします。	500円 前後
[6] 排卵確認（超音波検査／エコー、ホルモン採血） 超音波検査で見えていた卵胞が排卵していることを確認します。採血でも確認できます。	1,600円～3,600円/1回 前後

各検査について

費用



[7] 高温期採血

排卵後の卵胞は黄体に変化し、そこからプロゲステロンという黄体ホルモンが分泌されます。このプロゲステロンの働きで基礎体温が上昇して高温期になります。着床を助け妊娠を継続する為に不可欠なホルモンです。採血を行い、ホルモン値を調べる検査です。

2,500円 前後

[8] クラミジア検査

クラミジア感染症は卵管の周りに癒着をおこしたり、卵管を閉塞させる原因となる感染症です。採血で抗体を測定する検査と、子宮の出口(子宮頸部)を綿棒で拭い、その中にクラミジアの細菌がいるかを調べる検査があります。

1,500円 前後

[9] 男性不妊検査(精液検査など)

精液検査で精液量、精子濃度、運動率、運動精子数などを調べます。検査結果によっては精子DNA損傷検査、精液抗酸化力検査を勧めることもあります。

精液検査
350円~2,000円 前後
精子DNA損傷検査
12,000円 前後
精液抗酸化力検査
12,000円 前後

[10] 抗ミューラー管ホルモン(AMH)

抗ミューラー管ホルモン(AMH)は、卵巣内の卵子の数が年齢相当にあるかどうかを調べる検査で、卵巣の予備能力を調べる検査になります。

抗ミューラー管ホルモン
保険: 2,000円 前後
自費: 12,000円 前後

[11] 甲状腺ホルモン、甲状腺抗体検査

無症状にもかかわらず、甲状腺の病気が隠れていることがあります。甲状腺機能亢進や低下が流産に関わることや、妊娠中の甲状腺ホルモン値により胎児の発育に影響を及ぼすことが分かっています。採血を行い、確認します。

4,400~6,000円 前後

[12] 風疹抗体検査、ビタミンD、HIV感染症検査

妊娠初期に風疹ウィルスに感染すると、出生児が先天性風疹症候群を発症する可能性があります。妊娠中の女性は予防接種を受けられないため、風疹抗体がない場合は妊娠前に予防接種を受けてください。ビタミンDの不足は卵胞発育や胎児の発育にも関与すると言われています。HIV感染症の有無を確認します。

風疹抗体検査
3,000円前後

ビタミンD
2,600円 前後

HIV
3,850円

[13] 子宮癌検査(子宮頸癌・体癌検診)

妊娠とは直接関係がありませんが、まずは健康な体であるか確認するために検査をします。年に一回は検査をお勧めします。

頸部 1,100円 前後
体部 2,200円 前後

[14] 75gOGTT(経口ブドウ糖負荷試験)

排卵障害がある方の中にインスリンというホルモンが高すぎることが原因の一つになっていることがあります。糖負荷後の血糖やインスリンの反応をみて投薬が必要かを判断します。特に多嚢胞性卵巣症候群の方に検査をお勧めします。

3,300円 前後

[15] ホルモン負荷検査

排卵をコントロールする場所として、自律神経や脳下垂体という場所と卵巣などが関連します。どの部分が不調なのかを調べる検査です。検査薬を注射した後のホルモン値を測定します。採血は3回、30分程度かかる検査になります。

5,000円 前後

その他の検査(基本検査ではありません)

抗精子抗体検査、着床不全検査、不育症検査など

必要な場合には、抗精子抗体検査、染色体検査、着床不全検査、習慣性流産検査(不育症検査)なども行っております。

抗精子抗体検査
11,000円 前後 など

*保険では行うことができない検査もあります。